

栃木の 企業力

那須町のホテルエピナール那須は、那須高原で最大規模の収容能力(302室、1246人)を持つリゾートホテルだ。シニア世代に加え、乳幼児を連れだ若い家族の宿泊客も目立つ。

昨年の宿泊客数は約26万人。1995年のオープン以来最多を記録した。佐野智之総支配人(45)は「お客様に満足いただけるよう、全スタッフが積極的に取り組んだ結果」と胸を張る。

モットーは「フレンドリー&アットホーム」。大人がくつろげるファミリーリゾートを目指している。客室は定員5人の「ファミリールーム」(和洋室)が中心で、1階には木々や清流に囲まれた大型

ホテルエピナール那須

露天風呂やジェットバス、室内温水プール、子ども用プールなどを備えている。

料理は地元那須の旬の食材にこだわる一方、乳児には離乳食も豊富にそろえ、安心・安全な食を提供している。

子供服メーカーが昨年、「ウェルカムベビーのお宿」として認定し、首都圏などの若い家族連れにも認知度

が高まった。「子どもは楽しみ、親はくたびれる」という旅行の悩みを解消しようと、多様なサービスを展開している。

訪れる人により快適な時間を過ごしてもらおうと、この数年間は客室や館内の改装工事を進めてきた。その一方で、2008年秋のリーマンショック後は経費削減にも努め

た。正社員採用を控え、敷地内に託児所を設置して、結婚退職した女性社員をパートで再雇用。地元の飲食店と提携し、人出が足りない週末の日中に協力してもらうなどして人件費を抑えてきた。

3月11日に起きた東日本大震災では、客室の壁や廊下などが損壊し、1週間の休業を余儀なくされた。だが急

もてなしを尽くす姿勢が評価され、宿泊客のリピート率は高い。企画IT課の矢吹一也マネジャー(37)は、「私たちスタッフもこのホテルが好き。その思いがお客様にも伝わっているのでは」と話す。

昨年、ここで結婚式を挙げたカップルは205組。那須高原展望台が「恋人の聖地」に認定され、結婚式場があるエピナール那須もサテライト施設となった。今年は挙式するカップルがさらに増えそうな気配だ。

家族ぐるみ のリゾート



▲「乳幼児を連れたい夫婦にも、ゆっくりに語りつくりたい」と語る佐野智之総支配人(19日)

ピッチで復旧作業を進め、那須町内や福島県などからの避難者を優先的に受け入れた。一般向けの営業を再開したのは、4月になってからだった。

佐野総支配人は「大人から小さなお子様までリフレッシュできるリゾートホテルとして、さらにブランド力を上げていきたい」と意気込んでいます。(佐藤範明)

1995年オープン。2007年12月、世界的な金融機関「シティグループ」傘下となり、「ナクア ホテル&リゾート

マネジメント」が運営する。10年12月期決算の売上高は約48億円を過去最高。正社員約1700人、パート約1000人。